

WINDOW BARRIER

紫外線遮断・ガラス飛散防止粘着フィルム

モスクリーン® ウインドウバリア

施工マニュアル

この度は、お求めいただきましてありがとうございます。
フィルムをきれいに貼るためのマニュアルをご用意いたしました。
ご施工の前にぜひこのマニュアルを一読していただきますよう、
よろしくお願い申し上げます。

フィルムの選び方

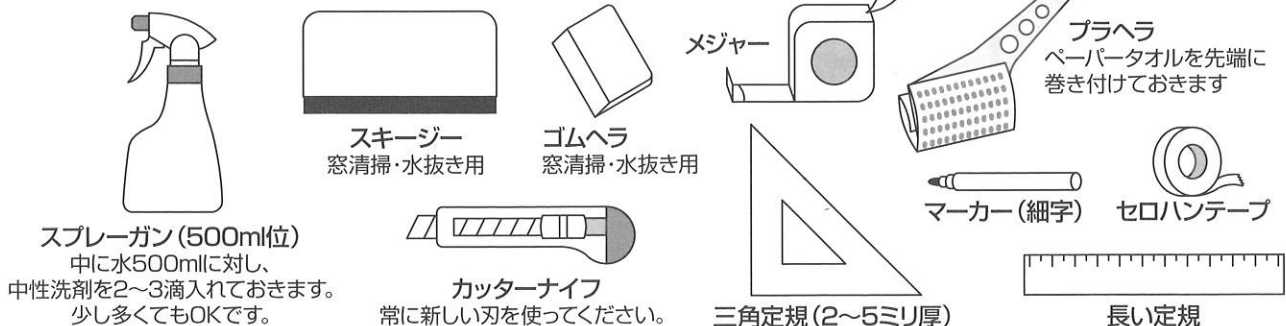
■内貼り・外貼り

フィルムは、ガラスの平たい面にしか貼れません。すり面や凹凸面では、フィルムが密着しないためはがれてしまいます。フロートガラス・熱反射ガラスなどは、室内側がガラスの平滑な面です。型板ガラス・すりガラスは、意匠的な面と汚れ防止の点から凹凸面やすり面が室内側になるようになっております。内貼に貼るか外側に貼るか、フィルムの違いやコストの違いが出てきます。特に、外側から貼るときには足場や天候の問題が出てきます。 ※プライマー(primer)での施工

■機能性フィルム

飛散防止フィルム
透明防虫フィルム→昆虫の好む紫外線域をカットします。
断熱・遮熱フィルム→太陽光の熱を一部遮断します。
マットフィルム→スリガラスのような効果があります。
透過光演出フィルム→模様により空間演出の効果をもたらします。
視界制御フィルム→ある方向から見えなくします。

施工に必要な道具



ウインドウバリアの貼り方

作業前の確認

※ガラスのサイズは、すべて同じサイズに見えますが、実は家屋の大きさに合わせてあります。作業を開始する前に必ず当て差しをして確認してください。

① サッシの内側を測ります。

パテの埋め方などにより、内側と外側でサイズの異なることがたまにあります。たいていは、設計上の仕様ですが、施工によるばらつきもあります。サッシの内々を測っておけば間違いありません。

② 足場の高さ (作業をするとき、窓の高さによっては足場が必要な場合もあります)

サイズを測るときにご自分の手が届くかどうかで、足場が必要かどうか分かります。脚立や梯子に登ったときに、窓の上部からの高さを測ってください。外貼りの工事の際には、2階以上の壁面の高さは、窓から「ひも」などを垂らして作業の高さを測っておいて下さい。脚立でとどく、梯子に登る、ローリングタワーがいる、スカイマスターなどの高所作業車を使う、など。本格的な足場組むなど足場の高さは、重要な要素です。※労基法:高所作業

③ 足回りの確認

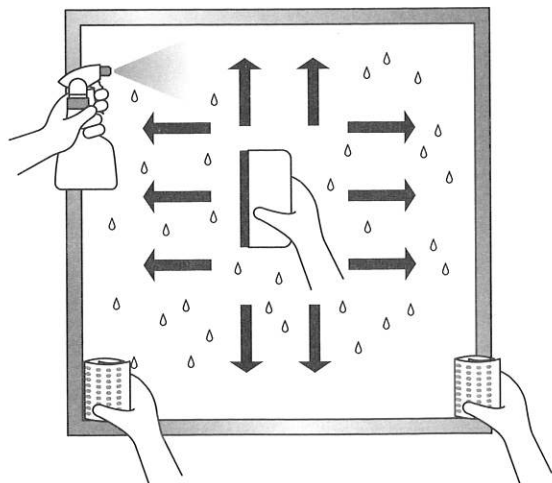
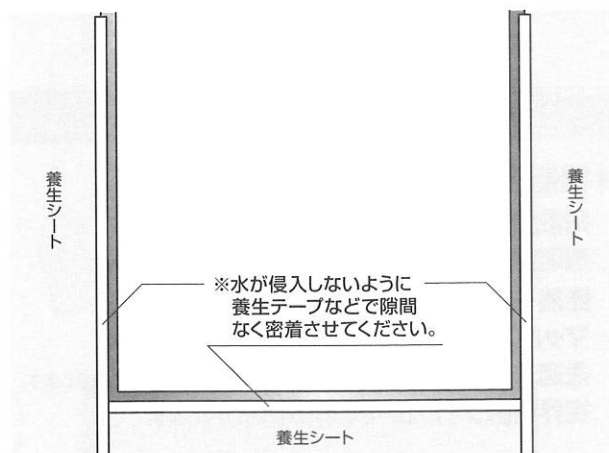
足回りの確認も必要です。室内では、棚やパソコン、工作機械・空調機があり、手が入らないところや足場を確保できない所があります。また、店舗は、作り付けの陳列台やATMなど動かせないものもあります。屋外では、溝、小屋、空調タワー、樹木など足場を組む障害物がたくさんあります。特に、溝の形状、幅には配慮が必要です。

④ シール・ステッカー

ガラスに表示物、広告物などは取り除けるかどうか確認が必要です。

1

窓ガラスの清掃



●水を使いますので室内の床や壁が濡れないように窓のまわりを養生してください。養生シートがあれば最適ですが、ない場合は開いたゴミ袋などでも代用できます。

●付近にパソコンなど水の嫌うものがある場合は安全な場所に移動させ、動かせないものは水がかからないよう養生してください。

●水溶液を窓全体にスプレーしながら、スキージー、ペーパータオルなどで汚れを落としてください。

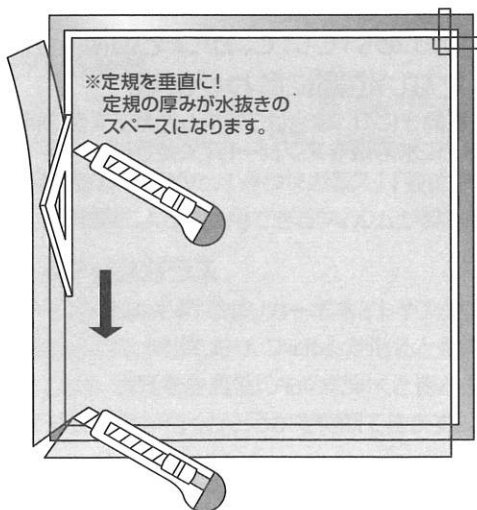
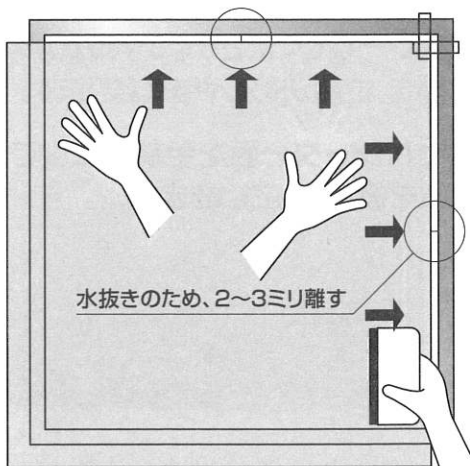
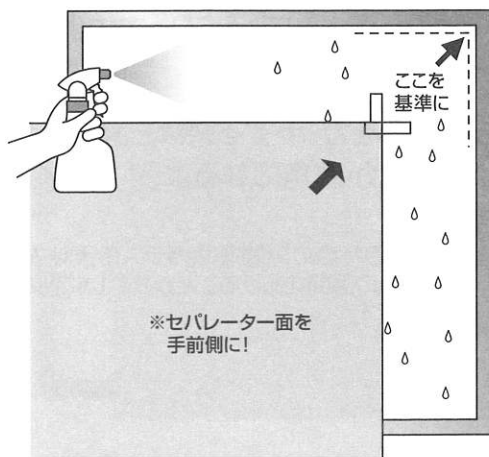
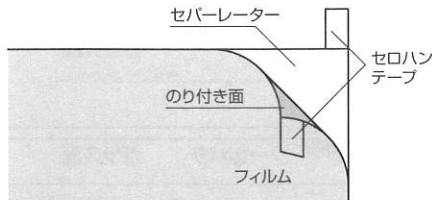
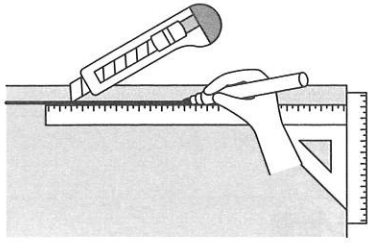
●窓の端や四隅の汚れをペーパータオルでよく拭き取ってください。

●汚れがひどい時はスクレイパーなどを使用してください。

●ガラス面にゴミやホコリなどが完全になくなったことを確認してください。

2

フィルムを窓の大きさに合わせます



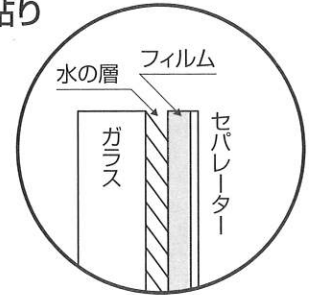
●フィルムの両端は平行にカットされていますので、端から少し内側のところに三角定規と直線定規を使って直角を出し、そこに長めの定規をあててマーカで線を引き、カッターで裁断してください。

●フィルム端の裏表にセロハンテープを貼り、少しはがしてフィルム(のり付き面)面とセパレーター(台紙)面を確認します。

●窓ガラス面に水溶液をまんべんなくスプレーしてください。

●窓の右上を基準にしてセパレーター面を手前側にしてフィルムを仮貼りしていきます。

●フィルムが水膜に浮いている状態(フィルムが動きます)を確認してください。



●フィルムの位置を合わせます。

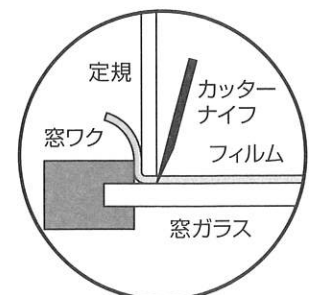
※動きにくい場合はフィルムとガラス面の間にさらに水溶液をスプレーしてください。

●水抜きのためにフィルムを窓の上端、右端からそれぞれ約2~3ミリ離してください。

●スキージーやゴムヘラなどでガラス面とフィルムの間の水膜を掻き出して密着させて仮止めしてください。

●窓枠の左と下に垂直に立てた定規を当て、スライドさせながらフィルムの余った部分をカットしてください。

※切る時、フィルムが動かないように注意してください。
※カッターの刃は、常に新しいものにしておいてください。

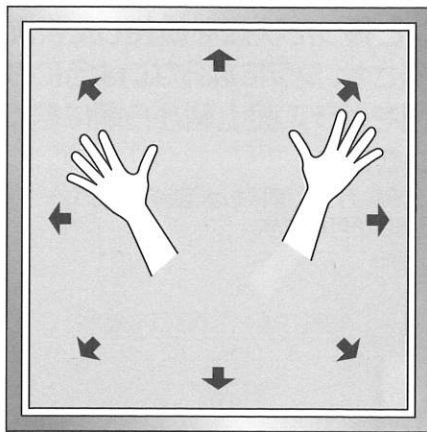
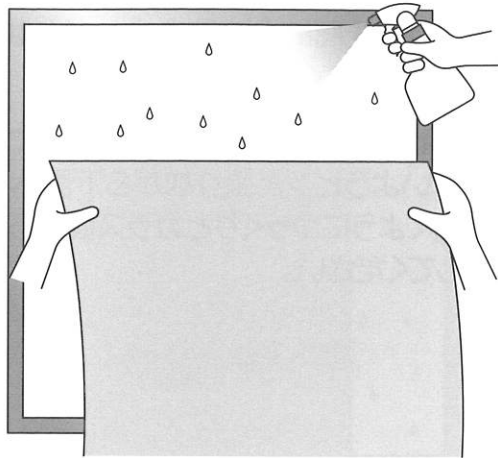


●あらかじめ窓の角にあたる部分に切れ込みを入れると、作業が楽になります。

3

本貼り

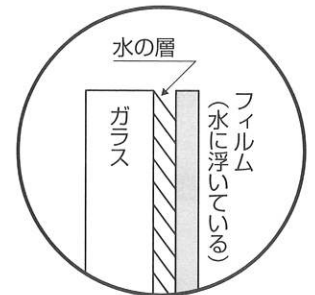
※フィルムをきれいに貼るために、二人での作業をおすすめします。



- フィルムをガラスからはがします。
- のり付き面とセパレーターとの間に水溶液をスプレーしながら、セパレーターをゆっくりとはがしてください。この時、一人はフィルムをピンと張った状態で持ち、もう一人はセパレーターをはがしながらスプレーすると効率的です。

- ガラス面に水溶液をまんべんなくスプレーしてください。フィルムが動きやすくなり微調整に便利です。
- フィルムを持った人がそのままピンと張った状態を維持しつつ窓側に持っていく、シワにならないようにガラス面上側から順に軽く貼っていきます。

- フィルムが水膜に浮いている状態を確認しながら、フィルムを動かして仮貼りをした位置に合わせてください。



ガラスの種類と使用できるフィルム

ガラスの種類

窓ガラスには、「フロートガラス」「熱反射ガラス」「型板ガラス」「すりガラス」などがあります。

また消防法上の理由から、それらに鉄線の入った網入りガラスタイプが加わります。

そのほか強度を高めた、「合わせガラス」「強化ガラス」「防犯ガラス」などもあります。

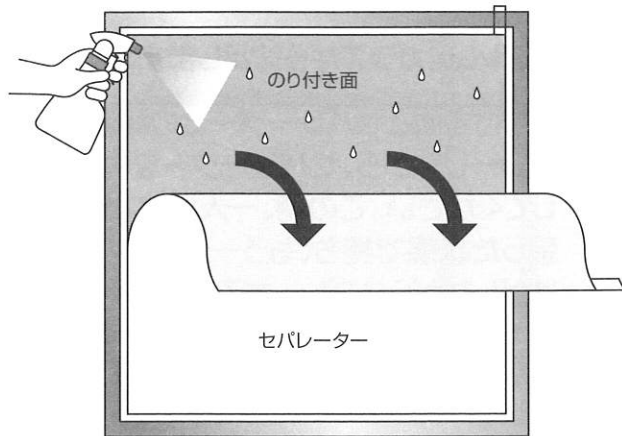
ガラスの種類によって使用できるフィルムが異なりますので、ご購入の前に窓ガラスの種類を必ずご確認ください。

プラスチックガラス

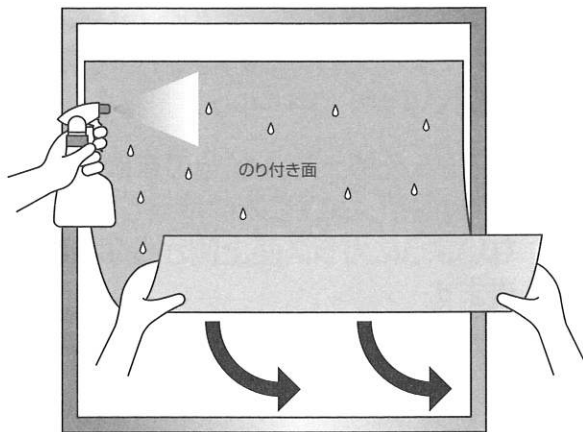
ガラスとよく似たものでポリカーボネイトやアクリルでできた「プラスチックガラス」があります。「プラスチックガラス」は、樹脂層からガスが出ており、フィルムを貼ると気泡ができてしまいますので、フィルムの使用は避けてください。

見分け方は、表面を金属性のもので叩くと音がガラスと異なります。それでも分からないときは、隅の方を、カッターの刃を立ててみて傷が付くかどうかで判断できます。(あくまでも、所有者の了解のもとに行ってください。)

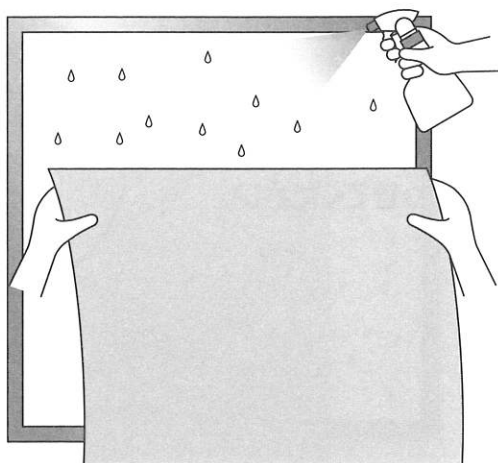
一人で本貼りする場合



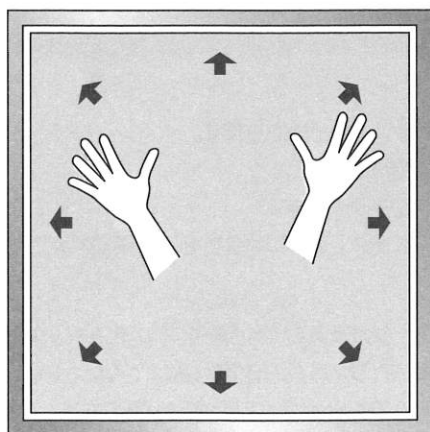
- ガラスに貼りつけたまま、のり付き面とセパレーターとの間に水溶液をスプレーしながら、セパレーターをゆっくりとはがしてください。



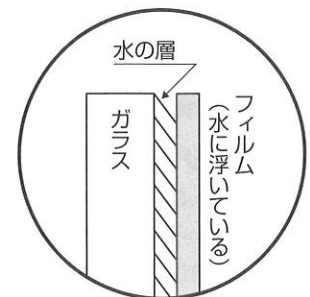
- のり付き面に水溶液をまんべんなくスプレーしてください。
- フィルムの下側両端を持ち、シワにならないようピンと張りながら下側へ引き抜くようにゆっくりとガラス面からはがしてください。



- ピンと張った状態を維持したまま上下反転させ、シワにならないようにのり付き面をガラス面上側から順に軽く貼っていきます。
※この時、ガラス面にも水溶液をスプレーすると貼り直しが可能です。

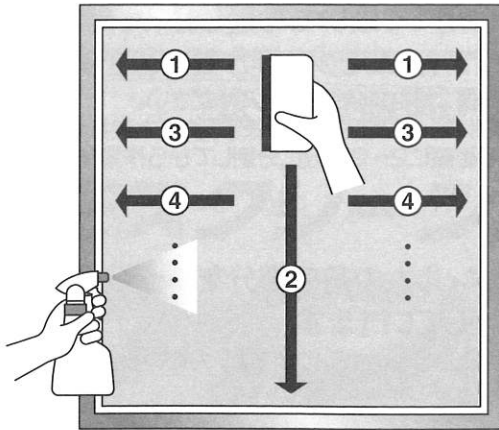


- フィルムが水膜に浮いている状態を確認しながら、フィルムを動かして仮貼りをした位置に合わせてください。

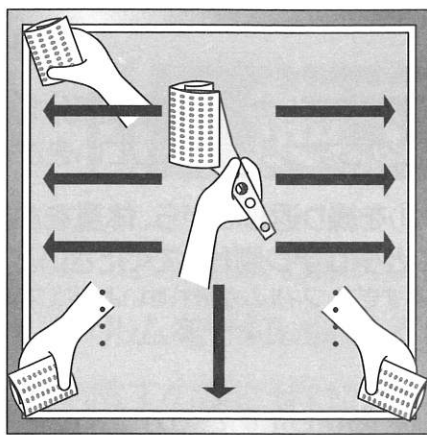


4

仕上げ



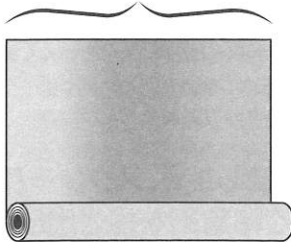
- フィルムに傷が付かないように、フィルム全体に水溶液をまんべんなくスプレーしてください。
- スキージーを動かしてフィルムとガラス面に残っている水気と気泡を押し出してください。
- スキージーは数字の順に、上部は左右に→中心を上から下に→全体的に少しずつずらしながら左右に動かせば効率的です。



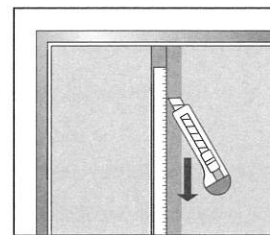
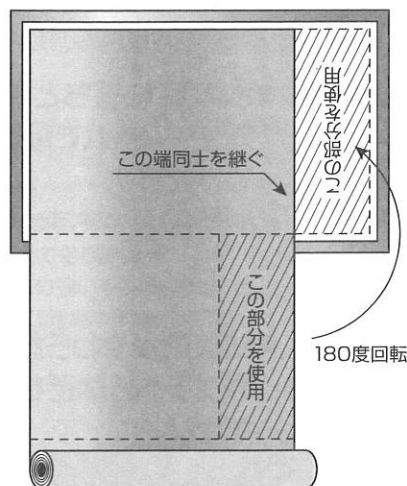
- ペーパータオルを巻き付けたブラヘラを使用し、残っている水気を完全に押し出します。
- フィルムの端にペーパータオルをあてておくと、押し出された水気を吸い出します。
- ブラヘラの動かし方は、スキージーと同じです。

フィルムのジョイント方法

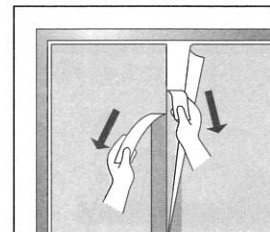
フィルムは製品の特性上、左右で若干濃度が異なります。フィルムをジョイントさせる場合、同じ端側同士をつなぎ合わすと濃度の差が出にくくなります。



※横ジョイントはしないでください。



1. フィルムを互いに10cmほど重ね合わせて貼り合わせ、その中央部を定規を当ててまっすぐ切斷してください。



2. 不要な部分を取り除いてください。

施工後のお手入れについて

- フィルムが汚れた場合、ぬれ雑巾ややわらかい紙などで拭き取ってください。
- 汚れがひどい時は、中性洗剤をご使用ください。
- 拭き取る場合は、一方向のみ拭いてください。

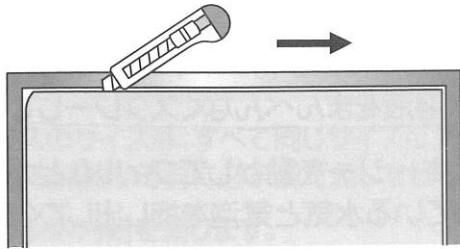


ご注意

アミ入りガラスには、透明フィルム以外は貼らないでください。熱割れする場合があります。

ウィンドウバリアの剥がし方

1

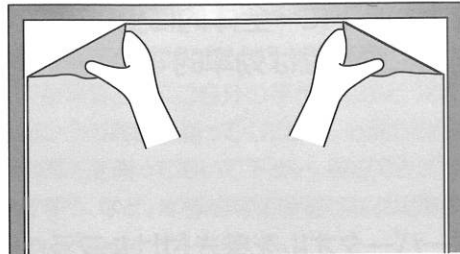


- フィルム上端とガラスとの隙間にカッターナイフなどの薄くて硬いものを差し込み、剥がしやすいようにフィルムを少し浮かせておきます。

※ガラスを傷つけないよう注意してください。

※大きな窓に貼った場合は、そのまま剥がすと破れやすいので、あらかじめ縦に2~3等分に分割してから作業を進めてください。

2

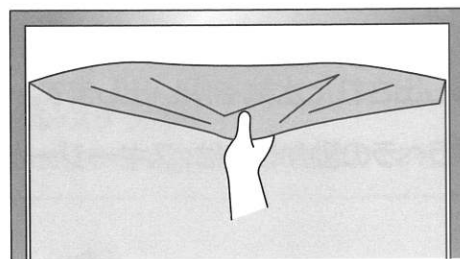


- 浮いたフィルムの角の部分をゆっくり少しずつ引き剥がしていきます。

※剥がすときは多少力がいりますが、力をいれすぎてフィルムが破れないようにしてください。

- 反対側の角も同様にフィルムを引き剥がしていきます。

3

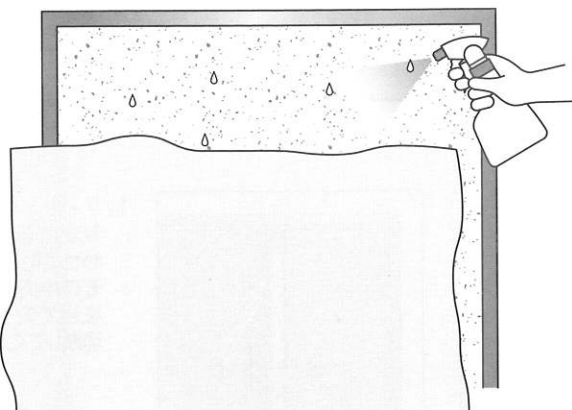


- 両端が剥がれれば、中央の部分を力を入れて下側に少しずつ引き剥がしていきます。

- 工程②③を繰り返しながら、体重をかけながらゆっくりと少しずつ剥がしてください。

※力をいれすぎて、フィルムが破れないようにしてください。

4



- フィルムを剥がしたあとのガラスに粘着剤が残りますので、それを取り除きます。

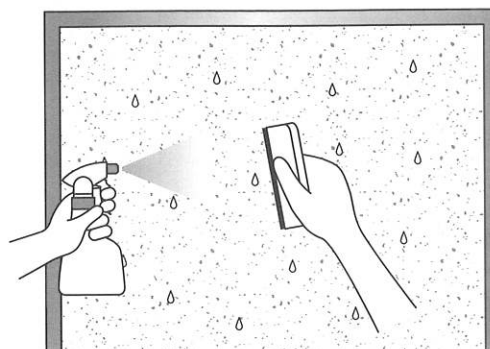
- 中性洗剤を少し入れた水溶液をガラス面にまんべんなくスプレーします。

※アクリル系粘着剤は水を吸い、やわらかくなります。

- 水の流れ落ちと乾燥を防ぐために、窓全体を養生フィルムで覆い、そのまま30分ほど放置しておきます。

※養生フィルムは、ホームセンター等の塗料コーナーにて販売しています。

5



- 粘着剤がやわらかくなりましたら、スクレーパーやブラヘらなどを使って粘着剤を掻き出してください。

- 窓ガラスにキズがつかないように、水溶液をスプレーしながら掻き出してください。

※スプレーは粘着剤の乾きも防ぎます。